

その常識、間違っている!?

脳ドックのホトのはなし



脳ドックは若いうちから受けるほうがいい?

人間ドックを受ければ脳ドックは受けなくていい?

脳ドックは定期的に受けたほうがいい?



監修 園 茂樹 先生
 宇部内科小児科医院院長、総合内科専門医、医学博士、1982年日本大学第一内科大卒、カナダ州立オンタリオがんセンター客員、那須中央病院内科部長、千代田県万クリック院長を経て現職、東洋医学にも詳しい、総合内科専門医として幅広い診療をモットーとする。
 取材協力：ディーパック株式会社

日本では2020年に10万人あまりが脳血管疾患で死亡し、死因の4番目になっています*。そこで今回は、脳の状態を検査する脳ドックについて、総合内科医の園茂樹先生にお聞きしました。

*令和2年(2020)人口動態統計(厚生労働省)

脳ドックにまつわる疑問

▲ 脳ドックは若いうちから受けるほうがいい?

脳ドックは特に40歳以上の人におすすみたい検査。なぜなら、40歳を過ぎると脳血管疾患のリスクが高まるからです。また、この年代は仕事での責任が増えたり、家計を支えたりしている人も多いため。今までは脳ドックを受けたことがない人は、脳動脈瘤や脳動脈硬化、モヤモヤ病(太い脳血管が詰まってしまふ病変)など、脳血管異常の有無を一度は見えておくことがよいでしょう。

× 人間ドックを受ければ脳ドックは受けなくていい?

脳ドックはその名の通り、脳の病変やそのリスクを詳しく検査するものです。一方、人間ドックは首から下を検査し、頭部に関してはほとんど触れませんが、通常は、脳血管疾患の原因ともなる動脈硬化を直接診断する項目も少なく、人間ドックで脳の病変やリスクを見つけることは難しいといえます

▲ 脳ドックは定期的に受けたほうがいい?

右記の脳血管の異常がなければ、脳ドックを毎年受ける必要はありません。検査よりも高血圧、糖尿病、脂質異常、タバコなどの生活習慣をきちんとしてコントロールすることが優先。生活習慣病予防をきちんとするうえで脳ドックを受けることは、試験勉強しないで試験を受けることと同じ。きちんと予防した上で気になる人は、5年に一度くらいのペースで受けることがよいでしょう。

脳に潜む無症状の病気とリスクを早期発見

脳ドックの主な検査内容はCTやMRI、MRA(血管造影に特化したMRI)による画像検査。目的のひとつは脳腫瘍、脳動脈瘤、脳動脈硬化の早期発見と発見し治療などにつながることです。脳腫瘍には原発性脳腫瘍と転移性脳腫瘍があり、前者の原発性脳腫瘍はその特性から、症状が出てきた時に検査すればよいケースがほとんどです。後者の転移性脳腫瘍は、主治医の指導に従ってすみやかに適切な治療をこなします。脳動脈瘤や脳動脈硬化奇形などは、無症状のまま突然発症し生命を脅かすことがあります。これらの血管奇形は、確率こそ高くありませんが、生活習慣をきちんと管理していても発症するリスクがあるため、一度は脳ドック検査で存在の有無を調べておくことがよいでしょう。

また、脳卒中をはじめとする脳血管疾患のリスクを明らかにすることも、脳ドックの目的。脳内の動脈硬化の様子から、脳れ脳梗塞や脳出血が見つかると、場合もあり、認知症の発症との関連が指摘されています。いずれにしても、脳血管疾患のリスクに対しては、動脈硬化を助長する生活習慣病(主に高血圧、高血糖、脂質異常)の治療が大切。脳ドックの結果にもかかわらず、かかりつけ医と相談の上、生活習慣を見直す、薬を飲むなど適切に対処しましょう。

脳ドックの主な検査内容とわかる病気

	MRI	CT	頸動脈エコー	心電図	ABI検査
内容	脳の断面と脳血管を磁気と電波で撮影する	X線で撮影部位の輪切り画像を抽出する	頸動脈の狭窄を確認する	心臓の筋肉に流れる電流を体表面から記録する	両腕・両足首の血圧と脈波の速さを同時に調べる
わかる病気	正頭厚圧水頭症、慢性硬膜下血腫、動脈瘤、動脈硬化奇形	脳出血や脳腫瘍などの有無	脳動脈瘤や狭窄、閉鎖など、全身の動脈硬化の兆候	不整脈(心房細動)、心筋虚血など	動脈硬化の程度など

Check! もっと知りたい脳ドック

Check! 1 MRIとCTはどう違うの?

MRIは全身の緻密な検査が一度におこなえるのがメリットですが、体にペースメーカーなど金属を入れていると使えません。CTはX線被ばくを伴いますが、脳ドックでは、自分でMRIとCTを選べることも。
 ※MRI対応ペースメーカーならば可。

Check! 2 動脈硬化がわかる頸動脈エコー(超音波)検査

頸動脈エコーは、動脈硬化の進行度が比較的容易にわかる検査方法。脳、心臓をはじめ全身の動脈硬化の検出ができるほか、脳梗塞のリスクも読み取れます。また、MRIやCTが検査設備の整った医療機関でしか受けられないのに対し、頸動脈エコーは地域の内科医でも備えているところが多い。自宅から近いかかりつけ医で、気軽に診てもらえることが可能です。脳ドックを受ける時間や費用が気になる人は、頸動脈エコーだけでも受けておくことをおすすめします。

Check! 3 隠れ脳出血を見つけるT2スタースター

MRIには、通常の撮影条件以外にT2スタースターなどの撮影方法があります。T2スタースターでは、通常の撮影条件では発見できない、自覚症状のない隠れ脳出血(微小脳内出血)を発見することが可能。隠れ脳出血があるということは、高血圧症や脳内の動脈硬化の可能性があるおそれになります。高血圧などの生活習慣病がある人は、撮影条件を指定して検査を受けることをおすすめします。ただし、医療機関によって、T2スタースターができないところがあるので、事前に確認を。

Check! 4 どうして脳ドックに心電図?

自覚症状はなくても心房細動という不整脈が起きていると、心臓の心房の中に血栓ができてしまう恐れがあります。その血栓が脳に移動し、脳梗塞の原因になるかもしれません。心房細動でも血栓は比較的大きく、脳梗塞を起こすと生命のリスクや重い後遺症のリスクが高くなるため、脳ドックで心電図検査もおこなうのです。

